

ヤナギムシガレイの胃中にみられる底生動物について(短報)

五十嵐 敏

On the Benthos found in the Stomach of *Tanakius Kitaharai* (JORDAN et STARKS)

(Short Paper)

Satoshi IGARASHI

ヤナギムシガレイは本県南部の重要な底曳網漁業対象種であり、その生息域は水深 80 m ~ 190 m で、主漁場の水深は 120 m ~ 140 m である(高越他: 1975)。食性は底生動物食であり、中でも多毛類の占める割合が高い(高越他: 1975)。

表 1 ヤナギムシガレイの胃内容物の種別個体数

採集年・月・日	昭和										計
	49.4.26	49.5.21	49.6.21	49.9.4	49.10.25	49.11.27	49.12.18	50.1.21	50.2.26	50.3.24	
漁獲場所	広野沖	不明(原釜)	木戸沖	不明(久之浜)	久之浜 と 広野沖	木戸沖	大津 と 日立沖	四倉沖	豊間沖	久之浜 と 広野沖	
水深(m) 測定尾数(空胃)	82 50(10)	23(1)	112 36(4)	54(3)	135 55(11)	141 49(25)	90~112 41(6)	112~127 60(20)	105~120 39(12)	180 47(3)	
ナナテイソメ亜科 <i>Nothria geophiliformis</i>	7	140	87	199	177	83	123	95	110	0	1021
スピオ科 <i>Paraprionospio pinnata</i>	72	6	61	8	2	3	1	11	132	0	296
カザリゴカイ科	17	28	41	22	27	8	44	11	23	140	361
その他の多毛類	8	6	5	0	1	2	6	0	4	29	61
オキアミ目	9	8	1	3	1	2	7	8	2	11	52
ヨコエビ亜目 スガメソコエビ科	5	13	12	30	7	5	15	4	2	3	96
その他のヨコエビ亜目	4	3	2	8	1	17	7	14	5	99	160
その他の生物	0	4	2	0	0	0	2	0	0	4	12
個体数 計	122	208	211	270	216	120	205	143	278	286	2059

表 1 から、本県沿岸のヤナギムシガレイの主餌料は多毛類のうちナナテイソメ亜科の *Nothria geophiliformis*、スピオ科の *Paraprionospio pinnata* およびカザリゴカイ科の数種である、と言える。これらの種に共通している形態は、有機物に富んだ堆積物を集めるための感触手状の器官を持っていることであり、これがヤナギムシガレイに餌料の存在を認知させ、その結果これらを選択的に捕食するのであろうと推測する。

これらの主餌料のうち最も摂食個体数が多い *Nothria geophiliformis* は、水深 10 m ~ 150 m の範囲の夏期の調査では、ヤナギムシガレイの主漁場に近い場所にもみ高密度に分布する種である。*Paraprionospio pinnata* は分布に季節変化がある(高橋他: 1976)と言われ、そのためヤナギムシガレイの胃中の出現割合も季節変化があることが推定されるが、茨城沖(水深約 10 m ~ 30 m)では 4 月に分布量が最低で 8 月に分布量が最高になる(高橋他: 1976)のに対し、本県のヤナギムシガレイの胃中の出現割合が高い月は 2 月、4 月および 6 月であった。

ヤナギムシガレイは成長段階によって食性が異なる(高越他: 1975)と言われており、稚魚から成魚までの成長段階毎の餌料生物とその生息環境を明らかにすることが、今後の課題である。

最後に、胃内容物のサンプルを提供して下さった本県内水試高越哲男研究員に深く感謝の意を表す。

文 献

- 高越哲男他：太平洋北区栽培漁業漁場資源生態調査，ヤナギムシガレイ・スズキに関する調査結果報告書，福水試調査研究資料No.134，1～23（1975）。
- 高橋 惇他：鹿島港周辺の底質と底生動物について，茨城水試研報 20，17～42（1976）。